

第二学年国語科 学習指導案

中学校

授業者

指導教諭

1. 日時 令和2年9月8日(火) 第3限 10:35~11:20

2. 場所 中学校 第2学年2組教室

3. 教材 つながりを考える「ポテト・スープが大好きな猫」三省堂「現代の国語2」

4. 指導に当たって

① 教材観

今回使用する「ポテト・スープが大好きな猫」は、一緒に暮らしているおじいさんと猫の物語である。ふたりの登場人物は、お互いが必要で大切だと思いつているが普段そんなそぶりは見せない。平穏な暮らしの中で、ある日ふたりの関係に危機が訪れ、回復に至るところで物語が締めくくられている。出典は絵本であるので表現や情景描写がわかりやすく、挿絵も美しいので、子どもたちにとって比較的読みやすいことが期待される。相手への行為に目を向けたり、人物相互が相手の気持ちを推論したりする記述に注意を払える文章なので、自己の存在のあり方、他者との関係や距離感に悩むことが多い中学生に適した教材だといえる。

② 生徒観

本学級の生徒は素直な子が多く、授業者の指示や発問を汲み取り、一生懸命考えたり、作業に取り組んだりする様子が多々見受けられる。また、誰かの意見を否定したり馬鹿にしたりすることはせず、温かく落ち着いた雰囲気の中で学習に臨んでいる。個の活動からグループでの交流・共有にも円滑に移行できる。本教材の初読の感想の時点で、半数以上の生徒が登場人物の人物像をほぼ正しく捉えられていたものの、後半にかけてのおじいさんの心情の変化に関して言及している生徒は少なかった。また、現実と物語の世界の区別がつきにくい生徒も複数名いた。

③ 指導観

前半部分の指導に当たっては、おじいさんと猫の「気持ちとは異なる言動」に焦点をあて、その時の本当の心情や、そこから見えてくる人物像、ふたりの関係について考えさせ、自分の言葉で表現させる。後半部分の指導に当たっては、特におじいさんの心情の変化を捉えられるように、前半部分との比較をしながら進めていく。また、文章中の一つの言葉から連想・想像し、具体的なものから抽象的なものにかえる活動を通して、思考力の向上も目指したい。さらに、周りや意見や考えを共有できるような機会を与え、多面的な視点から物語を深められるよう配慮したい。

5. 単元の目標

知識および技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう人間性
叙述に即して、登場人物の言動とその意味を時間に沿って整理する。	登場人物の言動や情景描写から二人の関係性・心情を考え、仲間との交流により自分の考えを広げたり深めたりできるようになる。	ペア・グループの話し合いの中で自分の思いや考えを伝え、主体的に仲間と交流しよう。

6. 指導計画(全6次)

時	主な学習内容・学習活動	評価基準・留意点(◎)
第1次	作者・訳者について確認する。 物語の音読を聞く。初読の感想を書く。	自分の考えが伝わる文章になっている。【書くこと】 ◎登場人物の言動に注意するよう視点を与える。
第2次	「おじいさんと猫の日常生活を元にふたりの関係を考える。」 *ふたりの日常生活の場面を読む おじいさんの人物像、ふたりの関係について捉える。	登場人物の関係や人物像を読み取り、自分の言葉で表現している。【読む・書くこと】 ◎自分の言葉で書かせた後、グループで発表させ、全体で確認する。
第3次	「おじいさんと猫の、気持ちとは異なる言動を捉える。」 *ある冬の日～猫の家出の場面を読む 気持ちとは異なる言動を文中から探し、そのときの本当の気持ちを想像する。	登場人物の言動の意味について考え、内容を解釈している。【読むこと】 ◎フラッシュカードを使用し、視覚的に分かりやすく工夫する。
第4次	「おじいさんと猫の心のうちを考える。」 *猫の家出～再会の場面を読む。 情景描写からおじいさんの気持ちを考える。猫の行動・態度から、猫の気持ちを考え話し合う。	文中の表現の効果について読み取れている。【読むこと】 論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめている。【話す・聞くこと】
第5次 (本時)	「おじいさんの心情の変化を捉える。」 おじいさんの場面ごとの言葉について、その時の表情、心情を想像する。またその変化の理由を考える。	互いの考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめている。【話す・聞くこと】
第6次	「ポテト・スープの役割について考えよう。」 ポテト・スープが物語の中でどんな役割を成しているのか、ほかの食べ物と比較して考え、話し合う。	論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめている。【話す・聞くこと】

7. 本時の展開 (第5次)

目標：場面の展開や描写などに注意して、登場人物の心情の変化を読み取る。

登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する。

時間	学習活動、期待する生徒の反応 (●)	指導上の留意点	評価方法
導入	1. 前回までの確認をする。		
5分	2. 本時の目標、活動の内容を理解する。 おじいさんの気持ちの変化をとらえよう		
展開	3. 6つのおじいさんの言葉・場面に該当するところを見つけ、教科書に印をつける。 4. 場面ごとのおじいさんの表情と本当の気持ちを想像し、プリントに書く。 →班で意見を共有し、考えをまとめる。 →班の代表者が班の意見を発表する。他の班の発表を聞く。 5. 言葉と表情と気持ちが相応しているか、または文章の表現を根拠に、場面ごとのおじいさんの素直さを数字で表し、班で意見をまとめる。 →班の代表者が意見を発表し、黒板上の「素直さ数直線」を完成させていく。 6. 発見できたこと、気付いたことをプリントに書く。 ●おじいさんは最後になるにつれて自分の素直な気持ちを表現している。	6種類の表情を提示し、そこから選ばせるようにする。 最後の場面の素直さを100%とし、そこを基準に考えさせる。きちんと根拠も説明できるように指示する。	表現に即して想像し、考えをプリントに記入している【関心・意欲態度】 互いの考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめている。【話す・聞くこと】
30分			
まとめ	7. おじいさんが素直になった理由を考え、プリントに自分の言葉で書く。 ●一人になったことで、猫の存在の大切さに気付いたから。 ●素直に気持ちを伝えることで今回のようなすれ違いをなくしたいと思ったから。		登場人物の言動の意味を考え、自分の言葉で表現している。 【読む・書くこと】
10分			

準備物 教科書、ワークシート

ポテト・スープが大好きな猫

二年組 番号前

◎言葉・場面ごとのおじいさんの表情と本当の気持ちを考えましょう。

言葉・場面	表情	気持ち	素直さ	その考えた理由
①なんて猫だ、まったく。なんの役にもたたんのだからな。	<input type="radio"/>			
②猫がいなくてどうだていうんだ。ただの痩せっばらの猫じゃないか。	<input type="radio"/>			
③どうせなんの役にも立たない猫なんだ。ねずみ一匹捕まえやしないんだから。	<input type="radio"/>			
④おまえは今のおまえのままでもいいんだからさ。	<input type="radio"/>			
⑤口笛を吹きながら、ポテト・スープを作る。	<input type="radio"/>			

気づいたこと・発見したこと